

令和元年度 第6回広島市感染症対策協議会

令和元年 10月 21日

- 【日時】 令和元年 10月 21日 (月) 19:00~20:00
【場所】 広島市役所 14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、高橋 宏明、佐藤 貴、堂面 政俊、
増田 裕久、藤本 三喜夫、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

(1) ロタウイルスの定期予防接種化について (資料1 P1~40)

9月26日に開催された、「第34回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会」において、ロタウイルスワクチンが令和2年10月から定期予防接種となることが承認された。

接種方法等については、ワクチンはロタリックスとロタテックの2種類を使用し、特別な事情がある場合を除き、原則としていずれか同一製剤での接種を完了すること、また、添付文書における接種対象年齢が限定的であり、早期の接種が求められることから、長期療養特例の対象としないこと等が確認された。

今後、異なる製剤を組み合わせる接種する場合の詳細な取扱いや、他のワクチンとの接種間隔について、議論がなされる予定である。

(委員意見)

- ・ 接種方法が複雑であるため、制度設計にあたっては保護者や医療機関に混乱が生じないように十分に周知を行ってほしい。

(2) インフルエンザの発生状況等について (資料1 P41~52)

今シーズンの発生状況について、2019年第41週(10/7~10/13)の定点当たり報告数(全国総数)は0.90で昨年同時期(0.12)に比べて報告数が多く、また、ほとんどの都道府県ですでに学級閉鎖の報告が上がっていることから、例年に比べて流行入りは早いと考えられる。本県においては、定点当たり報告数0.38で全国に比べると報告数は少ないが、9月24日に福山市内で県内最初の学級閉鎖が報告されている状況である。

また、厚生労働省は、今冬のインフルエンザシーズンのワクチンの供給見込み量は、令和元年9月30日時点で、2,933万本(1mLを1本に換算)であり、昨年の使用量(2,630万本)や平成29年を除く過去6年間の平均使用量(2,598万本)を上回っているものの、インフルエンザの流行シーズン入りが例年よりも早まった場合にはワクチン需要が例年より早い時期に増大することが予想されることから、10月4日付でワクチンの製造販売会社及び卸売販売業者に対して、ワクチン供給の前倒しを依頼した。

なお、本市においては今年度も10月15日から65歳以上の市民を対象にインフルエンザの定期予防接種事業を開始した。

(委員意見)

- ・ 引き続き市民へのインフルエンザ予防啓発等を行い、流行予防に努めてほしい。

(3) 平成 30 年エイズ発生動向年報及び「H I V (エイズ) 検査普及キャンペーン 2019 in 広島」の報告について (資料 1 P55~63)

8 月 29 日、厚生労働省エイズ発生動向委員会は、平成 30 年におけるエイズ発生動向を公表した。

これによると、平成 30 年の新規 H I V 感染者報告数、エイズ患者報告数はそれぞれ 940 件 (過去 13 位)、377 件 (過去 14 位)、合計 1,317 件 (過去 13 位) となっている。

いずれの感染経路も、性的接触によるものが 7 割以上で、特に男性同性間性的接触によるものが多くを占めている。感染判明時にエイズを発症している患者の割合が依然として約 3 割のまま推移しており、早期診断のために利便性に配慮した検査相談体制に努める必要がある。

なお、本市において、10 月 14 日に広島市中区のアリスガーデンで「H I V (エイズ) 検査普及キャンペーン 2019 in 広島」を開催した。音楽ライブやトークショーによるステージイベントとともに H I V (エイズ) 無料・匿名検査を実施したところ、74 名が受検し、判定保留の者はいなかった。

(委員意見)

- ・ 検査結果を知るのが怖くて H I V (エイズ) 検査を受けない者がいる。“H I V 感染=エイズ発症=死” という誤った知識を持っているためであり、正しい知識の普及が必要である。

2 9 月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料 2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	9月分	10月分
		届出日 9/2～10/6 現在	届出日 10/7～10/17
2類	結核	11人 (結核6人、潜在性結核5人)	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	6人 (9/2、9/4、9/6、9/11、9/25、10/4)	2人 (10/10)
4類	E型肝炎	1人 (9/30)	
	A型肝炎	2人 (9/17、9/27)	
	重症熱性血小板症候群		1人 (10/15)
	デング熱	1人 (9/2)	
	日本脳炎	1人 (10/1)	
	レジオネラ症	5人 (9/9、9/13、9/26、9/27、10/2)	1人 (10/10)
5類	アメーバ赤痢	1人 (9/20)	
	ウイルス性肝炎	2人 (9/5、9/25)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1人 (9/11)	1人 (10/17)
	急性脳炎	1人 (9/30)	1人 (10/10)
	後天性免疫不全症候群		1人 (10/17)
	水痘 (入院例に限る。)	1人 (9/9)	
	梅毒	2人 (9/2、9/10)	3人 (10/7、10/9、10/16)
	百日咳	17人 (9/2、9/5 (4人)、9/6 (2人)、9/9 (2人)、9/10、9/11、9/12、9/17、9/27、9/30、10/1、10/4)	1人 (10/11)

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和元年11月18日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報 資料2：9月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

5類感染症定点情報
(令和元年9月解析分)

1. 週報対象(第36週～第40週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↑	61	1.64		10	流行性耳下腺炎		9	0.38	
2	咽頭結膜熱	↘	29	1.21		11	RSウイルス感染症	↑	343	14.30	流→
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↔	149	6.20		12	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	感染性胃腸炎	↔	405	16.89	流↗	13	流行性角結膜炎	↘	36	4.51	
5	水痘	↓	14	0.59		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	↘	205	8.55		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑	↘	43	1.80		16	マイコプラズマ肺炎		3	0.43	
8	突発性発しん	↔	49	2.05		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ	↔	136	5.67		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(9月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↘	53	5.89
2	性器ヘルペスウイルス感染症	↘	25	2.78
3	尖圭コンジローマ		6	0.67
4	淋菌感染症	↑	28	3.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↘	24	3.43
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	↘	↘
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	↔	↔
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	↔	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数(令和元年9月分)

第36週～第40週(9月2日～10月6日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	11	126	1,966	16,375
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	1	4
	16 細菌性赤痢	-	-	12	75
	17 腸管出血性大腸菌感染症	6	11	637	3,018
	18 腸チフス	-	-	5	33
	19 パラチフス	-	-	2	13
	20 E型肝炎	1	2	40	394
四類	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	2	8	39	362
	23 エキノコックス症	-	-	2	16
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	13
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	2	4
	28 キャサナル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	1	1
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	10	81
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	15	38
	40 つつが虫病	-	-	4	86
	41 デング熱	1	4	89	371
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニパウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	1	54	208
	46 日本脳炎	1	1	3	3
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	2
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	9	46
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	4	13
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	1	2
	61 レジオネラ症	5	22	321	1,836
62 レプトスピラ症	-	-	8	17	
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	1	7	95	674
	65 ウイルス性肝炎	2	8	41	262
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	6	283	1,674
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	5	60
	68 急性脳炎	1	14	64	679
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	5	18
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	19	145
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	67	705
	72 後天性免疫不全症候群	-	9	115	904
	73 ジアルジア症	-	-	2	34
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	35	436
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	8	39
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	23	135	2,455
	77 水痘(入院例に限る。)	1	2	38	366
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	3
79 梅毒	2	62	680	5,111	
80 播種性クリプトコックス症	-	2	13	111	
81 破傷風	-	-	9	99	
82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	4	56	
84 百日咳	17	72	1,798	13,377	
85 風しん	-	13	66	2,222	
86 麻しん	-	6	43	719	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2	24	

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、9月は1,509人で、前月比1.10とやや増加した。

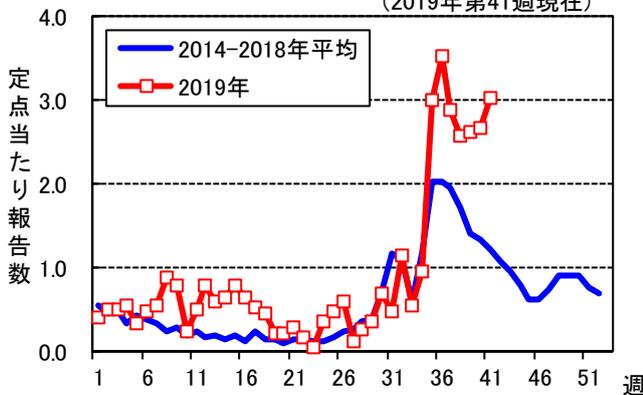
インフルエンザ、RSウイルス感染症は大きく増加、流行性角結膜炎は増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、突発性発しん、ヘルパンギーナはほぼ横ばい、伝染性紅斑はやや減少、咽頭結膜熱、手足口病は減少、水痘は大きく減少した。

(2) 特記事項

- RSウイルス感染症の報告数は、8月下旬から増加しており、例年同時期と比べて多い状況が続いている。患者の年齢は、1歳以下が全体の74.0%を占めている。症状は、軽いかぜのようなものから細気管支炎や肺炎などの重篤なものまで様々であるが、特に、1歳未満の乳児に感染すると重症化することがあり、注意が必要である。乳幼児の周囲の方は、手洗いを励行し、咳などの症状がある場合にはマスクを着用するなど、感染予防対策を徹底することが大切である。
- インフルエンザは、市内の定点医療機関から散発的に報告が続いている。広島市衛生研究所による遺伝子検査では、今シーズンはインフルエンザウイルスA(H1N1)2009型が5件検出されている(10月13日現在)。本格的な流行を前に、早めに予防接種を受けることを推奨する。また、健康管理に十分注意し、手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防を心がけることが重要である。
- 腸管出血性大腸菌感染症は9月以降報告が続き、今年の累積報告数は12件(第41週現在)となった。腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して少ない菌量でも感染する。感染予防には、肉等の食品の十分な加熱、食材・調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底する必要がある。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数

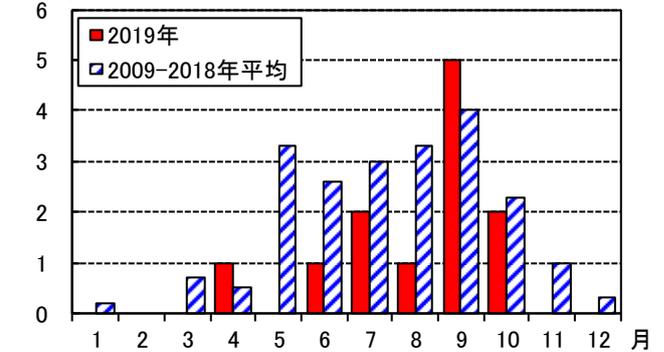
(2019年第41週現在)



腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(件/月)

※2019年は第1週～第41週



(3) 9月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 11件（患者：6件、潜在性結核：5件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 6件
- 4類感染症：E型肝炎 1件 A型肝炎 2件 デング熱 1件
日本脳炎 1件 レジオネラ症 5件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件 ウイルス性肝炎 2件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件 急性脳炎 1件
水痘(入院例に限る。) 1件 梅毒 2件 百日咳 17件

(4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎・・・【流行始まり】

RSウイルス感染症・・・【流行中】

2 検査情報

9月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	8 月	1 人
RS ウイルス感染症 その他の疾患	RS ウイルス	8 月	1 人
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌 T3 型	8 月	1 人
手足口病	コクサッキーウイルス A6 型	7 月	1 人
	コクサッキーウイルス A6 型	8 月	1 人
	コクサッキーウイルス A16 型	8 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 3 型	8 月	1 人
無菌性髄膜炎	エコーウイルス 30 型	8 月	3 人
その他の呼吸器疾患（上気道炎）	*パラインフルエンザウイルス 1 型	8 月	1 人
	*パレコウイルス 1 型		
その他の呼吸器疾患（肺炎）	コクサッキーウイルス B5 型	7 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 2 型	7 月	1 人
	アデノウイルス 1 型	8 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	パレコウイルス 3 型	7 月	3 人
	パレコウイルス 3 型	8 月	1 人
	パレコウイルス 1 型	8 月	1 人
	エコーウイルス 18 型	8 月	1 人
	エコーウイルス 30 型	8 月	1 人
	コクサッキーウイルス B5 型	8 月	1 人
その他の疾患（熱性痙攣）	パラインフルエンザウイルス 3 型	8 月	1 人
その他の疾患（その他）	パレコウイルス 3 型	7 月	1 人

*複数病原体検出例

24 人の患者から 14 種類のウイルス 24 株及び 1 種類の細菌 1 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、パレコウイルス 3 型 5 株、エコーウイルス 30 型 4 株、コクサッキーウイルス A6 型、コクサッキーウイルス B5 型、パレコウイルス 1 型各 2 株、RS ウイルス、アデノウイルス 1 型、同 2 型、同 3 型、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型、エコーウイルス 18 型、コクサッキーウイルス A16 型、パラインフルエンザウイルス 1 型、同 3 型各 1 株であった。検出細菌の内訳は、A 群溶血性レンサ球菌 T3 型 1 株であった。